

ラッキョウ

<ラッキョウ栽培の特徴>

ラッキョウは鹿児島、宮崎、鳥取（生産量上位3県）の砂地の産地において盛んに栽培されています。良質なラッキョウの収穫は砂地でできることから、スプリンクラーの設備が整っている特定の産地で栽培が広がっています。

砂地の特徴として、腐植が少ないため、肥料保持力が低く、保水性も低く（スプリンクラーで物理的に改善を図っています）、基本的に他の一般的な作物と比較して、肥料分が少なく、水分も多く必要ではない作物ではありますが、肥料バランスの崩れ（pHも含めて）や、土壤病害による生育ムラができる場合があります、そのための土壤改良のためにコフナは使用されています。

<コフナの使用法>

（例）鳥取県北栄町

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
土壤消毒剤 不使用					収穫				◎			
	コフナ10～袋／反											
土壤消毒剤 使用					収穫		DD等 薬剤消毒		◎			
	コフナ10～袋／反											

○土壤病害（センチュウ害等）が多くみられる場合は、薬剤消毒後コフナを使用

○肥料バランスの崩れ、土壤病害が軽度の場合は、コフナのみにて栽培。

<注意点>

ラッキョウは砂地で栽培されていることが多いため、腐植を増やす目的で、緑肥やワラなどの炭素率が高い作物を入れることがあります。その場合、砂地の地力窒素が少ないため分解の為、投入有機物に合わせて施肥をお願いします。栽培中に窒素飢餓を起こすことが過去にありました。